

港区立郷土歴史館

歴史館だより

□ title

特別展「港区と考古学」によせて
—港区の考古学調査・研究の歴史と知の蓄積—

□ name

高山優
(元港区教育委員会事務局学芸員)



伊皿子貝塚遺跡発掘調査の様子



芝丸山古墳群第1号墳の調査光景

昭和54(1979)年12月2日、約1年7か月に及んだ伊皿子貝塚遺跡の現地調査が無事終わりました。伊皿子貝塚遺跡の発掘調査は、港区教育委員会が所管した初めての本格的な行政発掘調査です。今年、伊皿子貝塚遺跡現地調査終了から40年目をむかえます。

港区の考古学研究は、明治20年代、東京帝国大学(現東京大学)の人類学教室にいた坪井正五郎と、坪井に師事した旧陸奥国(現福島県)棚倉藩主阿部正功等により着手されました。当時は、貝塚を中心とする先史(縄文)時代の遺跡が主たる調査・研究の対象でしたが、やがてその範囲は古墳に広がりました。

明治30(1897)年には、『日本石器時代人民遺物発見地名表』が坪井の監修の下に刊行され、翌年の改訂版(第二版)では、9か所が区内の遺物発見地として挙げられています。これらの半数近くは、今日、文化財保護法に基づき埋蔵文化財包蔵地(遺跡)とされています。

明治期から昭和初期に至る創成期の港区の考古学調査・研究は、坪井の弟子であり、阿部に学問的な影響を与えた考古・民族・人類学者である鳥居龍蔵

が著した『武蔵野及其周囲』などにより、一つの到達点にたどり着きました。しかしその後は、気鋭の研究者による調査活動が続き、芝公園の円墳群や亀塚の調査が行われたものの、近世遺跡の調査・研究が本格的に行われるようになるまで、著しい進展は見られませんでした。さらに、昭和33(1958)年から35年には増上寺徳川將軍墓の調査が行われましたが、この地が文化財保護法に基づく遺跡として認定されることはありませんでした。考古学の関心がまだ新しい時代に向けられていなかったことの象徴といえるでしょう。こうした流れは昭和50年代後半に近都市「江戸」の考古学的調査・研究が本格的に行われるようになったことで変化していきました。

令和元(2019)年度特別展「港区と考古学」では、坪井・阿部・鳥居と三人を取り巻く人びとが活躍した創成期から、今日に至るまでの港区の考古学調査・研究の歩みをたどり、この間に蓄積された成果の一端を、時代ごと・テーマごとに紹介します。

この展示をとおして、港区の歴史が、さまざまな人びとの活動に支えられ、綴られてきたことを感じていただければ幸いです。

□ title

特別展「港区と考古学」の展示余話 解剖学者河越逸行の仕事

□ name

駒形あゆみ
(学芸員)

令和元(2019)年度特別展「港区と考古学」では、発掘調査に関わる多くの研究者たちにも焦点を当てています。その中でも「人骨発見と近世遺跡の記録—解剖学者の遺跡調査—」の展示とその余話(こぼれ話)をご紹介します。

戦後復興とその後の高度成長期、日本中で大規模な開発が行われました。まだ現在のようない行政発掘の体制が整っていなかったこの時期、かつての江戸市中である現在の都内中心部では、江戸時代に埋葬された人々の骨が、土木工事中に偶然発見されることが多くあったといえます。そのような場合、たいいては工事関係者から警察署へ通報されるのですが、当時、東京慈恵会医科大学解剖学教室の助手だった河越逸行氏が、警視庁などの求めに応じて現場へ急行し、人骨の確認と収集・鑑定を一手に行うことも多かったそうです。

土木工事中に発見された人骨の鑑定以外にも、寺院内で行われた江戸時代の墓の改葬に立会うなど、河越氏が携わった現場は、昭和20年代後半から昭和40年代にかけて都内を中心に実に400件にも及びます。

河越氏は、東京慈恵会医科大学解剖学教室に所属しながら、普段は、中央区で開業した自身の歯科医



河越氏肖像

院を運営していました。本業も多忙の中、前述のような依頼をこなし、さらには、解剖学者として、形質人類学的な見地から出土した江戸人骨の精緻な観察を行いました。その成果は、複数の学術論文、著書『掘り出さ



河越歯科医院内江戸時代副葬品列品棚

れた江戸時代』(1965、改訂増補版は1975)等にまとめられています。これらは、出土江戸人骨研究の先駆けであり、現在にあっても研究の指針となっているものです。

河越氏の死後、氏が撮影した写真を収めたアルバムや論文の原稿等貴重な資料は、ご遺族によって、新宿区教育委員会郷土資料室(現新宿区立新宿歴史博物館)に寄贈されました。今回の特別展では、その中から松平家(結城)墓所の観察記録「芝西應寺祥運院墓所構造図」など、港区内の現場の資料を中心に借用、展示をします。展示で紹介しきれなかった資料の中には、日本テレビ系列の深夜番組「WIDE SHOW 11PM」に河越氏が出演された際の写真(おそらく河越氏がテレビ画面を撮影したもの)や、朝日グラフなどの雑誌に掲載されたインタビュー記事のスクラップも多く含まれていました。解剖学者として学問を修める一方で、テレビ番組や雑誌などで気取らずに、自身の研究を紹介されていた様子から、河越氏の人柄を偲ぶことができます。

港区立郷土歴史館

MINATO
CITY
LOCAL
HISTORY
MUSEUM



アクセス 東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線
「白金台」駅下車 2番出口徒歩1分
都営バス「白金台駅前」停留所下車徒歩1分
※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

開館時間 午前9時～午後5時(土曜日のみ午前9時～午後8時)
※入館受付は閉館の30分前まで。

休館日 毎月第3木曜日
年末年始(12月29日～1月3日)
特別整理期間

歴史館だより 第1号

令和元(2019)年7月1日発行
発行：港区立郷土歴史館
〒108-0071
東京都港区白金台4-6-2 ゆかしの社内
電話：03-6450-2107
FAX：03-6450-2137
<https://www.minato-rekishi.com>